東村山・生活者ネットワーク
市議会議員　白石えつ子
9月東村山市議会報告

障がいがあっても
なくても
地域で
共に暮らす

一般質問より

介護される人も介護する人も尊重されるケアラー支援条例の制定を

問 本市の高齢化率は27.7％、介護サービスの利用者は75.59％（令和6年）介護者不足と介護離職は喫緊の課題。認知症になっても、多種多様な障害児者も自分らしく尊厳をもって共に暮らせる介護、福祉サービスの拡充を求め、現状と課題に対する打開策を問うた。

子どもの生活実態調査から、本市の中学2年生の15.1％がヤングケアラーで、全体の3.1％は生活に支障をきたしているとの報告あり。

生活実態に即したアセスメントシートの継続の必要性を訴えた。

ケアラー支援条例制定の見解を市長に問う。

市長 国の法整備にヤングケアラーの定義づけがなされ、ケアラー支援がクローズアップされてきた。ケアの領域、公的なサービスを増やしていくことが柱になる。ケアワーカーの確保が難しく社会全体で支える事が重要。地域福祉、子ども計画をすすめながら、当市に必要なケアラーの在り方を検討していく。

白石 医療的ケア児を介護する母親の孤独感に向き合う姿勢など、小さき者・弱き者の利益の保障が必要と訴えた。

東村山市第2次自殺対策推進計画について

問 日本は子どもの自殺がG7の中でも一番高い。国・地方公共団体・事業主に問われていた責務に「学校」を加え、社会全体でその防止に取り組むと、国を挙げて対策強化の姿勢をうちだしている。本市の対策の推進計画を市長に問うた。

市長 専門家の「ライフリンク*」と連携協定を結び、子ども・若者に対しての支援強化として「～気づき 声掛け つながることで命をすくう 地域で生きるを支えあうまち～」の実現をめざし、行政だけでなく市民の皆さんと、地域へ自殺対策を進め展開していく。

*NPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」。

白石 チャイルドラインでは、自殺を考える子どもの8割は「話を聴いてほしい」との事。子どもの権利救済に「子どもオンブズマン」が必要と訴えた。

市長 チャンネルが多いほどアクセスしやすい。子どもの意見を聞いて、フィードバックが重要で、実効性のある解決策を取れる取り組みの在り方を、研究したいとの事。

令和7年度9月議会 主な決定事項

令和6年度決算は、一般会計、特別会計、下水道会計共に認定。

●厚生委員会に上程された議案は可決。

・義務教育就学児医療費の助成に関する条例及び高校生の医療費助成に関する条例の一部改正、令和8年度4月1日から小中学生及び高校生等の医療費助成における一部負担金（@200円）を撤廃するもの。

●請願

・手話言語条例制定を求める請願は全員起立で可決。

●陳情

・アピアランス*補助を求める陳情可決。

*アピアランス　抗がん剤をはじめとする薬物療法の副作用、手術による傷の変化などがもたらすストレスを、軽減するためのウイッグなどのケア。

・男性にHPVワクチン接種の助成を求める陳情可決。（白石は反対討論）

生活文教委員会手数料及び印鑑条例の一部改正議案は可決。

●手数料及び印鑑条例の一部改正。マイナンバーカードの普及や市民の利便性向上を目的とし、コンビニ等の多機能端末機（マルチコピー機）で交付する証明書等を窓口交付は100円引き、令和8年2月1日から7月31日までコンビニ交付手数料を一律10円とするもの。賛成多数で可決。

マイナンバーカード法によれば、取得選択の自由に反すること、マイナンバーカード非取得者が、対等な恩恵を受けられない現状は不公平であることから、白石は反対討論をおこなった。

●陳情

・ジェンダー平等の性教育を求める陳情は否決。（白石は賛成討論）

・八坂小給食調理室建て替えを求める陳情は否決。（白石は賛成討論）

令和7年度一般会計補正予算（第3号）・特別会計補正予算 賛成多数で可決。

・主に災害時の利活用のため、電動車いす対応可能なトイレカーの配置（納期は令和8年6月予定）。

・こども誰でも通園制度は、公立では第一保育園、民間では、おしゃら保育園が令和8年4月から開始予定。

決算認定討論

誰ひとり取り残されないまちの創出を！

多様性、社会的包摂性のある持続可能な東村山を目指し、黒字決算となった事を評価するも、財政見通しでは令和12年には財政調整基金が枯渇すると の予測から、超高齢少子化を見据えた公共施設再生計画など、多額の地方債を要する際、不用額に影響する契約差金を生まない対策と、指定管理者制度の在り方の見直しの必要性を指摘した。

子どもの貧困解消は背後の親の貧困解消にあるため、福祉・保健医療・教育等の重層的な相談支援体制と、制度の狭間に零れ落ちない連携の構築が必要。

社会的な自立につながる打開策の視点を持つことが、障害者の移動支援の強化となる。

みんなが共に遊べるインクルーシブ遊具等を設置した公園の誕生。公園実態調査結果に基づく公園全体の再配置・再整備の計画策定に期待する。

東村山版市民気候会議開催を評価。持続可能な行動変容を促し、グリーンインフラや生物多様性など、気候危機打開、脱炭素の姿勢を、市が率先して示すことを求めた。

秋津図書館りんごの棚設置は、誰もが本を読めるようになり、インクルーシブな居場所実現を評価する。

DXによるデジタル化を進める上で、公共サービスは、標準・平準化された情報システムの理解に時間を要する市民の情報利用の際には、人権意識の共有と合理的配慮によるバリアフリー化など、誰にも分かりやすい対応を求めた。

はじめの一歩カレンダー

10/10　国際福祉機器展へ
学校に設置可能な段差解消機チェーンウェイターの講座に参加。車椅子でも自由に動ける社会インフラの実現が、誰にも有効なツールに変わっていくことなどを共有した。参加された皆さんと！

10/11　インクルーシブ教育をどう実現するか？の研修に参加
弁護士柳原由以さんを講師に、異質な人を排除せず、互いの違いや弱さを認めあえる学級が求められているとの見解に共感！

カンパのお願い

生活者ネットワークの活動は、議員報酬の一部と年2回の皆さまのカンパで進めています。

今回も振り込み用紙を同封させていただきます。ご協力いただけましたらありがたいです。（ご無理な場合はご放念ください。）

●ニュース配布者募集中（薄謝あり）

●ニュースのメール配信をご希望の方は、こちらまで。

hmy.net@hyper.ocn.ne.jp

封筒の表書きの下に記載の二次元コードからも申し込めます。

生活者ネットワーク

活動の柱

原発はいらない
戦争のない平和な暮らし
多様性を認め人権を尊重する

3つのルール

・議員はローテーション
・議員報酬は市民の活動資金に
・選挙はすべて手作り